

オリエント・西洋古代史（1）

第一講 オリエントとは何か

「光は東方より…」

Ex Oriente Lux, 光は東方より

Ex Occidente Lex 法は西方より

アジアとヨーロッパを二項対立で捉える世界観

異質な存在としてのアジア

しかしあこがれの対象としての、気になる存在としてのアジア

古代ギリシア人は常に東方に強い関心を抱いていた

ペルセウスの神話・メドゥーサ退治とアンドロメダの救出

邪悪な物の潜む処・救済を求める東方

西洋近代におけるアケメネス朝ペルシアとオスマン帝国とのアナロジー

ともにデカダンスの中で語られる

君主の暴虐とハーレムの干渉、反乱と混乱と破綻の中で捉えられる

公平な西洋というイメージ

オリエントの偉大な貢献と専制政治を強調するバルフォア

エジプト人のためのエジプトを主張するムハンマド・アブドゥフ

レポート1：アジアについての諸君のイメージを記せ

ヨーロッパの東に広がる広大な空間

アジアは元々小アジア西部の一地方を指す地名だった

ヨーロッパ人の知見の拡大と共に東方に拡大されていく

近代のアジア認識

過去の偉大な文化や文明・長い伝統の存続

個という意識の欠如

停滞と後進性

広大な領域を誇る帝国の興亡

専制君主制

主要な宗教の起源・農業の発祥・古い都市文明の形成

論理性の欠如と非合理主義

レポート2：世界史における古代オリエント史の位置づけを記せ

高校の世界史における古代史の枠組み

『改訂版 詳説世界史 B』山川出版社、2012年。

序章：先史の世界

人類の進化、文化から文明へ、人類と言語の分化

第1部1章：オリエントと地中海世界

古代オリエント世界、ギリシア世界、ローマ世界

「古代文明のうち最も早く成立したオリエント文明」(24頁)

「大河の治水・灌漑にもとづく神権政治」(24頁)

「その政治形態の一部はイスラーム世界に引きつがれた」(24頁)

「文化的にはエジプトの太陽暦、メソポタミアの六十進法、フェニキアの表音文字などがヨーロッパに伝えられ」(24頁)

「パレスチナに誕生した一神教はのちにキリスト教をうみだした」(24頁)

ギリシア・ローマ文明に先行するオリエント文明という位置づけ

同時代性の欠如

非民主的政治体制

専制君主制(デスポティズム)

灌漑水利文明

灌漑の強調とオリエントの地理的多様性の無視

学問や宗教の起源

オリエントが生み出した文化はヨーロッパによって継承発展された

非民主性の継続

イスラーム世界への継承

近代ヨーロッパのオリエント観の拡大再生産

日本例概論

脱亜入欧

資本主義の発展と資本主義のエートスの存在

封建制の存在